

履修の心構え

経営学部の教育課程の目的は、皆さんに経営学の専門知識を教授するとともに、その専門知識を活用する人間として修得すべき幅広い教養を涵養することにあります。経営学部では、この目的を実現するために必要な科目を幅広くかつ体系的に開設しています。

皆さんは経営学部の科目を履修することで、様々な知識や技能を身につけることができます。そして、これらの科目をどのような順番で履修するかによって、大学4年間で体系的に修得できる知識や技能が異なってきます。したがって、皆さん一人一人が就学の目的や目標を確認し、自らの目標に合わせた履修計画を立てていくことが重要です。

では、実際にどのような履修計画を立てれば良いのでしょうか。まず1年次の皆さんは、総合的な教養と経営学の基礎をしっかり身につけることが何より重要です。そのために1年次では登録必須科目や基本科目等を多く配置してありますので、それらの科目を中心に履修計画を立てましょう。2年次以降では、1年次の基礎的な学修を踏まえ、経営学に関するより専門性の高い科目を履修することになります。その際、自分が将来の進路に向けて今何を学ぶべきなのか、各自が目的意識を持って履修科目を選択するようにしてください。

経営学部では、およそ260もの科目が開講されています。これらの中から、自分の目的に沿った履修計画を白紙の状態を組み立てていくのは、かなり大変な作業です。そこで経営学部では、皆さんの学修の関心や将来の進路、大学での勉強の系統性を考慮した履修モデルとして、2つのコースと2つの人材育成プログラムを設けています。コースの登録は2年次春学期に行いますが、1年次から自分が選択しようとするコースを視野に入れた上で、4年間の履修計画を立てるようにしてください。

各科目群の設置目的および特色

キャリア科目

キャリア科目は、関東学院大学の学生として、経営学部の学生として、多様な社会の中で『私』、『私たち』を積極的に位置づけ、そのための現在と未来をデザインする目的で設置されており、[全学キャリア科目]と[学部キャリア科目]に大別される。

[全学キャリア科目]は、全学部共通の内容で、関東学院大学の学生としての現在と未来について考える科目群となっている。詳しくは、「キャリア教育科目について」を参照してほしい。

[学部キャリア科目]は、経営学部の学生として身につけてほしいキャリアに役立つ知識を学ぶ科目群となっている。

総合科目

総合科目は、地域志向科目、総合基礎科目、総合テーマ科目の3つの科目群から構成されている。学期を追って、系統的な学修ができるように配置されているので、各個人の関心や学科のどのコースに進路をとるかで補完され、充実した学修が期待できる。専門科目群と有機的に結びつけて欲しい。

地域志向科目では、本学の立地する神奈川の地域の現状・特色・課題等について様々な角度から学ぶ。神奈川は世界的な国際都市・観光都市・工業地帯を抱えると同時に、関東の代表的な農・漁・山村を抱える、日本の縮図ともいえる多様性ある地域である。この神奈川についての学びを通して、地域社会の多元性に関する理解を深めるとともに、地域の魅力や課題を発見する力を培う。

総合基礎科目では、大学での学修に必要な不可欠な基本的な要素を集中的に学修できる。「KGU 情報基礎演習」では、学修に必要な不可欠なパソコン操作や情報処理の基礎的能力を身につける。「文章を書く」では、レポートや論文作成の基本となる読解力、理解力、文章作成力、表現力を培う。大学生としての心構えやマナー、大学で学ぶために必要なノートテイキングや図表の活用といったスキル、教養の基本の一つである資料の読み込み、発表、レポート作成等の力を身につける場が「基礎ゼミナール」で、ここでの訓練が後の学修の足がかりとなる。

総合テーマ科目では、経営学とは異なる学問的視座からさまざまな人間活動に光を当て、複眼的な視点から社会的に提起される問題を学際的に明らかにしてゆく。「問題関心」の高度化を図るべく「心身と社会」「メディアと文化」「人間と環境」「国際化と異文化理解」のテーマごとに「全体の視点」「テーマと関連する問題」「具体的問題」と総体的に深めてゆく。

外国語科目

外国語科目は、異なる価値観を認めながら自分の意見を発表できる人格の形成、及び実用的な外国語運用能力の養成を目的に設置されている。外国語科目は[登録必須英語 A][登録必須英語 B][選択英語 A][選択英語 B][英語以外の外国語][外国人留学生選択必修科目]に大別される。

[登録必須英語 A]は1年次、[登録必須英語 B]は2年次に配置されている。いずれもプレイスメント・テストの結果に応じた習熟度別クラス編成により、無理なく各自の英語力を伸ばすことができるプログラムとなっている。

[選択英語 B]は、各自の興味・関心、ニーズに応じて、1年次から4年次まで履修することができる。1、2年次に[登録必須英語 A]や[登録必須英語 B]と並行して履修し、さらに卒業要件最低単位数を満たした後も3、4年次に履修し続けることで、卒業まで語学力を伸ばし続けるよう心がけて欲しい。

[英語以外の外国語]ではドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、ハンブルを学ぶことができる。各々の言語に「〇〇語入門1・2【※スペイン語、中国語、ハンブルのみ】」「〇〇語会話入門1・2」(各科目1単位)がある。

初心者は、「〇〇語入門1・2」「〇〇語会話入門1・2」のうち1科目以上を履修する。

[外国人留学生選択必修科目]では、卒業要件として規定されている外国語12単位の代替科目として、「日本語理解」「日本語表現」(各科目1単位)と「論文・論説の日本語1・2」「日本語1・2・3」(各科目2単位)を用意している。

経済学・法学科目

経済学科目には、経営学を学ぶ上で役立つ「経営のための経済学」を置いている。経済学的な考え方、金利や賃金、商品・サービスの価格決定等、経営学を学ぶ上で必要な経済学の基礎を学ぶことができる。

法学科目は、わが国の法の基本的な骨組みをなす6つの法典（憲法、民法、商法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法）のうち、**経営学と関連の深い商法の特別法である「会社法」と、「民法」に関する知識が得られる。その上、企業活動に深く係わりをもつ行政、労働関係の法規についても学ぶことができる。**

基礎的な法の分野を学びたい学生は「民法総則1・2」「会社法（概論）1・2」を履修するとよい。また、企業経営との関連性について深く学びたい学生は、「会社法1・2」を中心として、「労働法」「行政法総論1・2」を各自の関心に応じて履修するとよい。

経営学科目

■ 経営学科目における2つのコースについて

経営学科目には、専門分野2コースとしてビジネスリーダーシップコース、流通マーケティングコースという2つのコースがある。「大学を卒業したらどのような職業に就くか」を考え、希望する職業に就くためには「大学でどのような科目を、どのような順序で学ぶか」が、はっきりとわかるように科目を配置している。これによって、学生は目標をもって、基礎的な科目から応用的な科目へ、順序よく体系的に学修できるようになっている。

経営学科目は、基本科目、応用科目、コース科目、実践系科目と会計人材育成プログラム科目との5つに大別される。

■ 基本科目

基本科目は、2年生になってどちらのコースを選択した場合でも経営学部の学生として必要な科目であり、「経営学の基礎」となる重要な科目群である。

企業と連携した実践的な学びを実現する「K-biz ベーシック1」、「K-biz ベーシック2」は、企業や社会が抱える問題を発見しそれを解決するビジネスプランを作成する科目である。「K-biz ベーシック1」（1年次春学期）では、ビジネスプランを作成するために必要最低限の知識を学習し、「K-biz ベーシック2」（1年次秋学期）では、少人数のゼミナール形式で「K-biz ベーシック1」で学習した内容を基にグループ単位でビジネスプランを作成する。

「K-biz ベーシック2」は、「K-biz ベーシック1」での経験や反省、気づきを2年次以降の理論的学習や実践的学習に活かすことを目的としている。また、グループワークや発表会においてそれぞれの役割をしっかりと果たすことが評価の前提となるので、発表会も含めて毎週の授業に出席し、活動に積極的に参加することが強く求められる。

■ 応用科目

応用科目は、基本科目を受けて3～8セメスターに配置される、「基礎の発展」という位置づけの科目である。

■ コース科目

コース科目には、各コースの教育目標が達成できるように科目が配当されている。

ビジネスリーダーシップコース科目

事業活動を継続し、経営戦略を企画・創造する知識・技術を修得し、企業人に求められるリーダーシップ、意思決定力、判断力を持った人材を育成するコースである。

組織の中でリーダーシップを発揮し、組織運営のあり方、財務・経営情報に関する知識を修得し、問題解決能力の向上を図る。実践ビジネス科目を中心に、主体的な学びを通してリーダーシップを身につけると共に、資料収集、分析、企画、コミュニケーション能力を涵養する。

このコースでは、製造・流通・サービス企業全般の総合職、経営コンサルタントなど経営をサポートする仕事や起業家、事業後継者などの進路を想定している。

流通マーケティングコース科目

消費者ニーズの調査、商品・サービスの企画・提供から消費者への訴求、効率的な流通ネットワークの構築、情報技術の活用に至るまで、流通・マーケティングや観光・ホスピタリティのマネジメントに関する総合的な知識を修得し、それぞれの分野で活躍できる人材を育成するコースである。

マーケティング関連科目と流通関連科目を中心として、流通・マーケティング・マネジメントに関する総合的な知識の修得を図る。さらに、主体的な学びを通して、資料収集、分析、企画、コミュニケーション能力を涵養し、リーダーシップを身につける。

このコースでは、企業の商品企画・開発・広報・営業担当者、行政や商工会議所でまちづくりを支援する部門、広告代理店などの進路を想定している。

■ 実践系科目

実践系科目では、より実務的な観点からビジネスについて学ぶ科目や資格取得に関わる科目を開講している。

例えば「ビジネスプラン」と「神奈川の中小企業」は、高度なビジネスプランの作成や神奈川の中小企業の経営戦略とビジネスモデルを学ぶ科目等がある。

資格取得に関わる科目は、各種資格の知識や実務的な能力を身につけることを目指している。

■ 会計人材育成プログラム科目

会計人材育成プログラム科目は、税理士、公認会計士等の資格取得と税務・会計の専門知識を活かした職業に就くことを目指す学生のための科目群である。1～8セメスターに「簿記および演習1・2」、「簿記検定(2級)」を配置し、日商簿記2級の資格取得を、3～8セメスターに、「連結会計」、「財務会計基礎1・2」、「財務会計応用1・2」を配置し、簿記1級や税理士資格を目指す。

専門ゼミナール

ゼミナールは、15名程度の少人数形式で行う演習科目である。**2年次春学期(3セメスター)に希望するゼミナールに応募し、卒業までの2年半にわたり、いずれかのゼミナールに継続して所属する。**ゼミナールの選択はコースに関係なく、すべてのゼミナールの中から希望するゼミナールを選択できる。しかし、ゼミナールには定員(15名程度)があり、希望者が多い場合には選考が行われ、所属を認められない場合もある。選考は面接の他、1年次の成績等が参照される場合もある。

ゼミナール1は登録必須科目であり、必ず履修登録をしなければならない。つまり、必ずいずれかのゼミナールに所属しなければならない。もし、選考によって所属ゼミナールが決まらなかった場合は、抽選により所属先が決められる。

ゼミナールでは学生は週1回のゼミナールに参加して、テキストを読み、またそれぞれの課題について資料の整理や分析を行い、4年次には卒業論文を作成する等の活動を行う。ゼミによっては各種の課外活動やゼミナール大会に参加する。このようにゼミナールには2年半所属し、自分の興味に基づきより深く専門的に学ぶ場であることから経営学部における教育・研究の中心的存在であるといえる。